

■青柳文蔵 蔵書を抛出し私財を投じて、日本初の公開図書館開設だけでなく、その安定的運営も図った。

あおやぎぶんどう

・・・・・・1761＝ 陸奥国東磐井郡松川で、青柳氏の出で小野寺氏養子となった医師三達の三男に生まれる。本名小野寺茂明。

幼くして父から経書を学び、

山伏の良悟院から漢字・書を習い、

・・・・・・1770＝ 9歳：

子どもらと遊ばず、読書を好んで、神童と呼ばれるようになり、

田沼意次老中1772＝11歳：

2人の兄が医者嫌って商売の道に進んだため、

雨月物語刊・1776＝15歳：

医師を継がせようとする父によって、

登米郡の名医飯塚葆庵に入門させられるも、師の収入の少ないことを知ると、弟子を辞めて帰郷し、父に諭されて、再び入門するも、

ワッ船蝦夷来 1778＝17歳：

父にも無断で江戸に出、父の旧姓青柳氏を名乗って、折衷学派の井上金峨に入門、

源内獄中死・1779＝18歳：

学問に励みながら、儒学者大田錦城・漢詩人大窪詩仏・狂歌師大田蜀山人ら、一流人と交流するうち、

・・・・・・1781＝20歳：

学費に尽きて、退塾し、

一時某医師に入門するも、当時の医者の生き方や自分の腕を理由に断念し、

学識をもって某藩に仕えるも、当時の役人の生き方や自らの浅学を理由に続かず、

田沼意次失脚1786＝25歳：

質屋を開業して利益を上げるも、金は目的では無いと辞めてしまい、

・・・・・・1788＝27歳：

裏長屋に住んで、寺子屋を開き、近所の子どもたちに読み書きを教えていたが、

町で昔なじみに会った際、冷ややかに扱われたことから、一念発起、蓄財することに努めるうち、

松平定信引退1793＝32歳：

宋代の名判決例を集めた「棠陰比事」を読んで感銘を受け、人々を助けようと、(青柳屋)の看板を掲げて、公事師を開業すると、

昌平饗始・・1797＝36歳：

やがて評判が江戸中に広まるようになり、生活も安定したことから、

豊島郡高田の新倉氏を妻とし、

ワッ来航・1804＝43歳：一子勇次郎が誕生。

ワッ報復・1806＝45歳：

・・・・・・1810＝49歳：

人生50にもなって、後事を経理できない者は、死生の理を達せない'と悟って、妻の里の金乗院に墓地を買い、大田錦城選の碑文のある生前墓を設けると、

ゴッブニ拿捕 1811＝50歳：

勇次郎が夭折して、父母への不孝に目覚め、帰郷して、蒲生君平銘のある父母の墓を建立するが、

・・・・・・1815＝54歳：

伊能測量終・1816＝55歳：

今度は、*妻も死去して、いよいよ社会への貢献を意識するようになり、

水野忠成老中1818＝57歳：

姪の子を養子に迎え、

・・・・・・1820＝59歳：

還暦祝いに友人らから、亀交山筆「青柳文蔵肖像」と朝川善庵選「青柳文蔵肖像記」を贈られるなどした後、

シッホト鳴滝塾1824＝63歳：

買集めてきた図書2800部余り2万巻ほどと、それを納める文庫の建設修理費として千両を仙台藩主伊達斉邦に献上し、

シッホト追放・1829＝68歳：

*一般の人々にも公開することを、友人を介して願い出ると、喜んだ斉邦から謁見を賜った上、終身十人扶持を下賜され、

富嶽三十六景1831＝70歳：

*仙台の土地に書庫が建設され、(青柳館文庫)と名づけられ、松崎儵堂選文「青柳文庫記」も建てられる。同時に、文庫本の修理と東磐井の困窮した人々を救うため、郷里に(備荒倉青柳倉)を建設することを願い出て許可され、自ら撰した「青柳倉碑」も建てられる。

天保大飢饉始1833＝72歳：

この間の天保の大飢饉にも、(青柳倉)の米によって、東磐井では餓死者を出さず、

大塩平八郎乱1837＝76歳：

蛮社の獄・・1839＝78歳：江戸亀戸天神傍の自宅で、_没した。

「この人どんな人」、「人づくり風土記(岩手)」、